

直面する課題

気象変動による
自然災害の激甚化

エネルギー枯渇

新興感染症

国際紛争および
難民問題

世界的規模での
格差拡大

世界的な社会問題が複雑化する中で、問題解決に向けて包括的に取り組むことのできる文理協働型研究が必要
環境調和性のみならず社会的意義や文化的価値も重視し、経済的可能性も考慮した真の社会実装が必須

政策提言

多様なステークホルダーとの協働による
政策提言や情報発信を通じた持続可能性
の概念の可視化と国際社会への普及

産業振興・検証

自然科学の成果による産業応用・商品開発
これらの活動についての人文・社会科学的
観点による持続可能性の検証

包摂社会考察・推進

日本とグローバルサウスを中心と
したこれからの包摂社会の在り方
の考察・推進

西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究機構

政策提言ユニット
(東京農工大学)



産業振興・検証ユニット
(電気通信大学)



包摂社会考察・推進ユニット
(東京外国語大学)



国際協力

海外政府
機関

海外
NGO・NPO

海外企業

海外
大学・研究所

期待される社会的インパクト

三大学の強み・特色を柔軟・幅広かつ強固に融合し、「グローバルサウス」に焦点を当て、グローバル化がもたらす社会問題の解決と、科学技術イノベーションを活用した社会実装でのインパクト創出を目指す。

グローバルサウス=現代の資本主義のグローバル化によって、負の影響を受けている世界中の場所や人々



- ・気候変動による自然災害やエネルギー枯渇、新興感染症（COVID-19等）などの自然環境にかかわる課題に加えて、国際紛争や難民問題そして世界規模での格差拡大など、世界的な社会問題が複雑化しています。
- ・複雑化する地球規模での課題を解決するためには、自然環境だけでなく社会環境の観点も合わせて、包括的に取り組む文理協働型の研究が必要です。
- ・このとき重要なのは、自然環境への調和性のみならず、社会的意義や文化的価値も重視し、さらに経済的に実現可能か否かも考慮した、真の意味での「社会実装」が必須となっている点です。
- ・文理協働型の研究や社会実装を活性化させるためには、より広く関係者が集い、人的ネットワークの拡充や多様な研究者の協働を恒常的に推進し、高等教育機関による支援体制を構築することが必要です。
- ・その目的を果たすため、東京外国語大学、電気通信大学、東京農工大学の三大学は、『西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究機構』を設立しました。
- ・本機構では、「グローバルサウス」と呼ばれる、現代の資本主義のグローバル化により負の影響を受ける世界の場所や人々を対象に、以下の3つの使命を定めています。
 - ①政策提言や情報発信を通じた持続可能性の概念の可視化と国際社会への普及、
 - ②産業応用・商品開発の検討・実装並びに持続可能性の検証、
 - ③包摂社会の在り方の考察・推進
- ・三大学を統括する機構組織のもと、各大学に上記の使命を担う、研究担当ユニットを置き、三大学の研究者が互いに密接に連携をとり、「政策提言」、「産業振興・検証」、「包摂社会考察・推進」の3つの役割に対して包括的かつ流動的に取り組みます。
- ・三大学の強み・特色を柔軟・幅広かつ強固に融合し、グローバル化がもたらす社会問題の解決と、科学技術イノベーションを活用した社会実装でのインパクト創出を目指します。